

あらかき通信

2019年12月31日 発行

(株)アラキ工務店 編集・発行 荒木 勇

〒 615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668 www.kyoto-araki.jp/

Fax 075-872-0223 info@kyoto-kozai.com



いろいろと賞をいただいて、なんだか縁起がいいです

普段通りの事をやっているのですが、意外と、当社の活動をみている方がおられるようで、嬉しく思います。ありがたいですね。これからも、頑張らなくっちゃ。

荒木 勇

未来の京都まちづくり推進表彰

魅力あふれる未来の京都の実現に向け尽力したという事で、表彰いただきました。毎年高校生のインターンシップを受け入れていたからだと思います。10月15日にロームシアター京都で表彰式が行われました。

と、いっても、239団体も表彰されているので、会場は人だらけ。京都市自治記念式典行事の一つのようでした。



京都景観賞 京町家部門

当社で改修した京町家が4軒選ばれました。O邸は、伏見にある間口の広い京町家。出格子・一文字軒・駒寄・虫籠窓と、京町家らしい外観を残して改修した建物です。H邸は、北野にある織屋建ての京町家。外国籍の方のお住まいで、表に木製の肘掛すりを付けました。B邸は、現在展示施設として活用されています。T邸は重要景観建造物の認定を頂き、改修して喫茶店をされています。12月8日に京都国立博物館で表彰式が行われました。



京都市輝く地域企業表彰 地域企業輝き賞

当社の活動が地域に根差して企業活動に取り組み、他の企業の模範になるということです。当社は、「若い職人さんを育て、京町家など戦前に建てられた住宅を構造から改修する」という活動で申請しました。12月16日に京都経済センターで表彰式が行われました。ただ、この制度、応募締切まで2ヶ月ほどだったので、制度があること自体知らない方も多かったかもしれません。



工務店っぽくないTシャツできました！

当社の壁画をTシャツにあしらいました。第二工場をつくったので、壁画がみえなくなってしまうからです。

ぱっとみて、工務店のTシャツとわからないのがいいところ。胸元に小さく「アラキ工務店」と書いてあるだけ。これなら、みんな着てくれそうです。

現場でみかけたら、「お、かっこいいね！」と、褒めてあげてください♪



住まいについていろいろな話 第25回 「建築廃材処分について」

今回は建築につきものの産業廃棄物処理についてです。今一番注意をするのは、まずアスベスト、その他にコンクリートやアスファルトの解体ガラ、それと建築材の木材と新建材、それからお客さんの家庭ゴミまで様々です。近年だいぶ変わりました。

一般のご家庭でもゴミの分別は大変手間がかかりますが、建築で出る産業廃棄物はもっと細かく分類しないと引き取り拒否をされます。産廃運搬業者でも最終処分場でもいろいろと混じっていると降ろせません。持ち帰って分別し出直しを命じられます。ですから、我々工業者も分別をします。大きく分けて25品目ほどに分類します。これは処分費がそれぞれ違うので、混載では値段が出ないからです。

一番高いのは発泡スチロールやウレタンマットです。一番安いのは木材です。これは焼却のしやすさからでしょう、廃プラスチックも高くて木材のおおよそ15倍かかります。発泡スチロールは45倍です。建築現場ではトラックに木材もコンクリートも化学製品も混載で積んでいますが、これらはそのまま処分場には持ち込めません。必ず工場に持ち帰り分別します。一つ一つ手作業で分けます。これが大変です。うっかり混じると当日は降ろせないのので一日無駄になります。

冒頭にも書きましたが、何といても厄介なのはアスベストが付着している建物や、製品に練り込まれているあるいは混合されている建築資材です。この解体は密閉した閉鎖空間で研修を受けた作業員の作業のみ許されるので、ものすごく大変です。また通常の処分場では受け付けません。ですから、壊さなくていいものはできるだけそのままにして上から覆って新しいものに改修します。解体しなければ大気中に放出されず、安全なのですが、いつかは大掛かりな環境で解体することになりますね。

一般の家庭で使いやすいのは行政機関の大型ごみ回収です。連絡をして該当するシールを買い求め、貼り付け、道路際まで指定日に出しておくのと引き取り業者が回収してくれます。この方法が一番安価です。また小型家電製品は指定の場所にもっていけば無料で処分してくれます。但しエアコン・冷蔵庫・テレビ・洗濯機は駄目で、リサイクル法にのっとり手続きを踏んで処分します。

通常の処分場で引き取らないものに薬剤や油、高圧ガスやPCB、ガソリン灯油、食物残渣、汚物に汚泥、燃えカスに灰、照明器具の蛍光灯管(内部にPCBが塗ってある)などが有り、それらを専門に扱っている業者に依頼しなければなりません。かなり高額です。我々建築業者も同じです。一昔前は何でも捨てられるルーズさがあったので



ですが今はダメで、規則違反すると、免許の停止に処分場への出入り禁止等すぐ商売ができなくなります。我々建築会社もゴミ引取りを拒否されれば明日から仕事が出来ませんので細心の注意が必要です。

難しい時代になりました。お客様へのお願いです。工事に関する廃材の処分は致しますが、上記に記しました廃棄物に関しては、ご理解をお願いします。どうしようもない場合は、また、御相談はさせていただきます。

村上 幸男

混合廃棄物	混合廃棄物	60 円/kg	比重0.2以下に 混合物への廃石
	残渣物・ミンチ等	35 円/kg	左記の単価は目 混合物の内容に
	スプリングマット	5,000 円/枚	
廃プラスチック類	廃プラスチック類	60 円/kg	
	発泡スチロール、 スタイロフォーム、 ウレタン等	200 円/kg	
	グラスウール等断熱材	200 円/kg	
	タタミ(本葉)	1,500 円/枚	
	スタイロタタミ	1,500 円/枚	
	タタミB	3,000 円/枚	水濡れ、汚
	コンクリートガラ	150 円/kg	※土裏袋入り をいれたら +50円/ト

3年前の処分場の処分費単価表
実際は、収集費と運搬費が必要

ドイツから大工さんが見学に来られました！

最近、アラキ工務店に海外からの見学の方をお迎えする機会があり、思いがけない文化交流となりました。そのうち、ドイツから大工さんが見学に来られた時の話です。

日本の大工技術に興味があるとのことで、まず木材を加工する工場を見学してもらいました。取り扱う樹種の違いなど、木材の話に花が咲きます。ドイツでは木を化粧で見せることはあまりないらしく、無節の化粧材の多さや、超仕上げ（電気カンナ）の機械から出る極薄のカンナくずに驚かれていました。

次に京町家改修現場に移動し、実際にカンナをかけるところを見てもらいました。カンナがけした木材は水をはじくため腐りにくいと言われていることにも、興味津々の様子。ちなみに、ドイツでも日本のカンナのことは「カンナ」と発音するそうです。

ドイツの大工さん、白シャツにコーデュロイのパンツというお洒落な服装なので、私服かと思っていたら、ユニフォームと聞いてびっくり。ベルトのバックルは、見習の間は銀地に金、職人になると金地に銀の模様になるそう。腰のチェーンはハンマーを下げるためのものとのことで、現場にあった玄翁で使い方を実演してくれました。

面白かったのは、現場の臭いがドイツと同じということ。ドイツの現場も改修工事が多いとのことで、工事序盤の、土や埃、時にはカビや小動物などの臭いは万国共通ということなのでしょう。余談ですが、工事が進むにつれて徐々に木材の香りが強くなり、臭いが匂いに変わっていく過程も、視覚だけでなく嗅覚でも、工事の進捗を感じさせる要因なのかなと思いました。

別れ際、見学のお礼にと、斧と鋸の刻印があるキーホルダーと、風呂敷のような布をいただきました。聞けば、ドイツでは3年間の見習期間の後、試験に合格すれば職人となり、さらに親方になるためには、3年間で1日の間、放浪しながら修行するという伝統があるそうで、風呂敷は、最低限の身の回りの品を包んで持ち歩くためのものとのことでした。修行の間は故郷にも帰らず、移動手段は徒歩かヒッチハイクのみという厳しいものだそうです。



現在は、他に職業学校などで修行する道もあり、伝統的な放浪修行を選ぶ大工さんは年々減っているとのことでしたが、「もし日本で僕のような恰好をしてこの風呂敷を持った外国人がいたら、修行中のドイツ人の大工だと思って下さい」との言葉を残して、若者は颯爽と、大工さん御用達の「職人さんの店」へと消えて行きました。

現場監督 長崎 道



お洒落なハンマー掛



工事現場にて

京町家の現場調査 2軒

先日、伝統的建造物群保存地区内の建物と、祇園町南歴史的景観保全修景地区内にある建物の、現場調査を行う機会を得た。両建築とも、伝統建築という意味では同根であるが、時代や用途、構造や趣に違いがあり、興味深い現場調査になった。

伝統的建造物群保存地区内に建つ建築物は、口伝によると約300年前に建てられた古民家で、街道沿いに茅葺屋根を持つ母屋と瓦葺きの蔵が隣接する。大屋根の茅葺や瓦などは近年に葺き替えられており、郊外の素朴な古民家の趣が保存されている。

今回は蔵の棟木が腐食し、一部空洞化しているとの事で、補強方法についての相談に伺った。松丸太を採用した棟木はシロアリによる被害を受けて



昔の趣を残す階段手摺

おり、床材及び柱にも白蟻の被害が確認された。現在、腐食した棟木の補強方法、並びに母屋を含めた白蟻駆除方法について検討を重ねている。

一方、祇園町南歴史的景観保全修景地区内にある建築物は、路地奥に佇む3連長屋で、両端の町家は料理屋として使用されており、真ん中の町家は置屋として活用されている。今後の改修に備えるために、そのうちの2棟について現況図を作成するための野帳を作成した。

路地に隣接する建築物や塀などの工作物はもちろん、計画対象の長屋についても修景地区内にふさわしい趣がある。今後の計画次第では、内部空間に改編が加えられるかもしれないが、外部意匠については、個人的な趣味やその時の気分などが介在する事のない、ふさわしい趣を踏襲する必要があると考えている。

今回の各計画に、微力ながらお力添えができる事に感謝。



腐食した棟木

小野 敏明

現代風京町家

町家風外観の建物を準防火地域内に新築したいとのご依頼を頂きました。

通常、準防火地域内へ木造の建物を新築する場合、建物の外壁や軒裏、窓などの開口部にはそれぞれ防火の規制を受けることになり、昔から建っている京町家のように外部の仕上げに木材を使ったり、木製のガラス窓を使ったりすることは困難となります。

いかがでしょう！

一見、柱や梁の構造材をそのまま化粧としているように見えますが、実は外部の木材は全て程良い厚みに加工した部材を貼り付けております。外壁を一旦モルタルで覆い防火構造とし、建築基準法をクリアした後に、木を外部へ貼り付けるというなんとも手間暇の掛かる工事を行っております。

特に、柱が土間の延べ石に直接載っていて伝統工法のように見えますが、



現況

こちらにも内部には鉄筋コンクリート造のベタ基礎があり、その上に土台がしっかり筋結されている一般的な在来工法で施工しております。

玄関内部の土間です。間口一杯の玄関からリビングへ入りたいとのご要望があり、お部屋に直接窓を設置できない間取りとなってしまいました。

建築基準法では居室への採光面積の最低限度が決まっています、お部屋の壁に直接窓を設置できない場合、かなり不利な条件となってしまいます。そこで、いろいろと思案した結果、下屋根に天窗を設置し、そこから玄関を介して採り込む方法としました。この辺りは建築基準法の複雑なところなのですが、天窗は壁面の窓の3倍の採光面積があると見なされるため、これにより無事ご要望の間取りとすることができました。

今回の工事は、外観は町家の佇まいを忠実に再現し、内装や間取りは現代の生活環境に応じて計画させていただきました。伝統工法ではなく在来工法によって造られた「現代風京町家」という、新築の新たな可能性について見いだせたのではないかと考えております。



竣工

米沢 和也

台風21号(去年の9月4日)の影響で壊れた セキスイU瓦工事中

去年(2018年)9月4日に台風がきましたが、台風の修繕につきましては、年内で、まだ 終わりそうにありません。簡単どころや、まだ漏れているところから修繕しています。



工事前



仮復旧



工事ほぼ完成

さて、既存写真のセキスイU瓦。すでに廃番です。割れ替えできません。瓦の凹凸が大きく、似たような形状のものはありません。特に、棟瓦は複雑な形で、板金では復元できません。

仕方がないので、今回は、下屋の目立たない面を鋼板立平葺きにして、そーっと壊れないように、めくった瓦を壊れたところにもっていきました。

台風の修繕で、まだ見積もりができていないお客様、ならびに『去年お願いした台風の修繕がいつになるのか』と長く待っていただいているお客様、本当に申し訳ありません。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

荒木 智

工事中の、ちょっと凝ったもの

一つ目が収納の棚です。

当初のプランでは、棚を作る予定はありませんでした。工事が始まり解体を進めると、無理やり柱が抜かれていることが分かりました。今回は補強のために柱を建てることにしましたが、部屋の中に柱がぽつんとあると邪魔になるので少し工夫し、収納にしました。

棚板を仕込み、棚板の上には棚を新設。棚板の下にはゴミ箱を置ける用に高さを調節し、棚は 2 段可動式として、お施主様の使い方に変更できるようにしました。

柱と可動棚がずれているのは、少しでも窓を広く取るためです。普段は全てそろえることがすっきりとしてかっこいいと思っていましたが、揃えなくてもあまり違和感がない事に気が付けました！窓の開け閉めにも干渉しないので、機能的にも問題ありません。実はこのズレたスペースが小物を置くのにちょうど良いのだと、後日お施主様に言われ、気に入ってもらえたようでうれしい限りです。



棚板を作って柱をカモフラージュ



壁掛TV下地に一工夫

次がテレビ掛けです。

普通壁掛けのテレビだと、壁掛け金具がしっかりと固定できるように壁をめくって下地を補強します。ですが、今回はクロスもそのままですので壁をめくらない方法を考えました。

間柱を打ち付け、横棧の化粧板を等間隔で取り付けます。間柱は天井の下地と床、壁の下地に固定、さらにはクロスをめくり石膏ボードにボンドで張り付けています。

一番工夫したのが、壁掛け金具の大きさに合うように板の感覚を決め、テレビの高さが標準の 1,200 mm に来るように調整しました。桧の板なので強度も問題ないでしょう。このテレビ掛けが部屋のアクセントになり、カッコイイと喜んでいただきました！



このようにちょっとした工夫で、問題点もプラスに出来ます。改修工事では各現場は、一つとして同じ状態ではありません。それが分かっているからこそ、面白いものだと思います。

やりがいのある仕事を、お施主様の笑顔のため今日も一日頑張ります！！

大久保 朋彦

編集後記

今回は、盛りだくさんでしたね。実は、フランスの建築士・大工・工務店さんたち10名もお越しになり、当社・現場・作事組と見学されました。

遠いところからはるばる日本に来て、名所が沢山あるのに、当社の見学に半日もかけていいの？ と、思いましたが、皆さん結構楽しそう。当社としても、よい思い出になりました。

荒木 勇

